

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	有限会社サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 2号館		
所在地	〒025-0002 花巻市西宮野目第13地割121番2		
自己評価作成日	平成 24年 9月 18日	評価結果市町村受理日	平成 25年 2月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kan=true&JizyosyoCd=0390500122-008&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24年 9月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ケアプランを大切に、個人のペースに合わせた暮らしが継続できている ②日々安心して楽しく生活できる居場所作りの取り組み ③職員のスキルアップと情報共有のための会議の開催 ④ご家族へのお便り ⑤ユニット間の協力体制 ⑥職員間が明るく仲が良い ⑦利用者の気持ちになった介護ができるようになってきた ⑧家族との連携が上手くいっている ⑨所長は職員の育成に力を入れている ⑩ユニット間の交流が毎日ある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年の4月に増築し2ユニットのグループホームとなったことで、事業所全体の体制も大きく変わっている。職員配置は新採用者と1ユニットのころからのベテランとでユニットごとに分かれているが、それぞれ別個のものとしてではなく、全体に新たな手法や視点を持ち込むなど管理者を中心として一体的な運営がなされており、両ユニットに技術やコミュニケーションの向上など相乗効果を生み出している。特に利用者の意向や思いの把握、ケアプラン作りを職員全員で慣れないながらも丁寧に行っていることは、利用者のニーズに向き合い寄り添おうとする熱意と誠意が感じられ、その姿勢は家族にも伝わっている。地域との関係づくりや職員がまだ成長途上にあることなど今後の課題もあるが、利用者の気持ちを職員一人ひとりが探索し理解しようとする向上心や、職員間や家族とのあいだで「利用者のために」交わされる率直なコミュニケーションを背景として、利用者の役割と生活者としての存在感、そして先々においては地域における役割と信頼を生み出していくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 2号館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「できることをやっていただく」ことで、その人らしく生き活きと生活して頂けるよう関わりと申し送り、センター方式のケアプランにより、入居者の皆さんが個々の力を発揮できるよう取り組んでいる	「十人十色・千差万別の介護」という法人理念を具体化するものとして「利用者のできることに」新たに焦点を当て、利用者の個性の発揮と生活における主体性の促進が全職員において目指している。	利用者一人ひとりのできることを探すという意識は、職員にとって利用者をより深く理解することにつながっている。その理解から検討される様々な配慮を、ケアプラン作り等を通して職員みんなで共有していただいたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公民館活動に参加したり、入居者と一緒に回覧板を届けたりしている	2ユニット体制となって以降、事業所全体としての地域交流はこれからといった側面もあるが、公民館清掃などを地域住民と協働しているほか、管理者が地域講演に歩く中で徐々に知名度も高まってきている。また地域防災訓練の参加や交流サロンなども計画されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が「認知症」についての講演を地域で行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的開催し、ご意見を運営に活かしている	元市議会議員など地域の要職にあつた人たちに加え、介護保険担当課や包括支援センターの職員、利用者家族がメンバーとなっている。会議内容は丁寧に資料化され、共有しやすいものとなっている。	地域の理解が深い多彩なメンバーがそろっていることは大きな強みである。様々なアドバイスを得ていく中で、地域の話題も織り交ぜながら創造的なコミュニケーションの場となっていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市の担当者へ入居者の暮らしぶりやニーズの具体を伝え連携を深めている	市内複数の包括支援センターから認知症講演依頼を受ける中で関係が深まっている他、市の長寿福祉課とも2ユニット増設に際してアドバイスを得るなど、率直なやり取りができる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ気持ちを別のことに向けたり、一緒について行くなど安全面に配慮して自由な暮らしを支えるようにしているが、入居者の安全を考え緊急時には施錠している	事例を検討する中で施錠の悪影響を職員は学んでいる。また今後開催する勉強会では言葉による抑制をテーマとする予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については勉強会や会議などで学ぶ機会を持ち、理解浸透や尊守に向けた取り組みを行っているが、関連法については勉強不足である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり、制度について理解・共有に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に話し合う機会を作り丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には電話や訪問時に、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している	利用者のために考えられることは家族にも率直に伝えており、家族の理解も徐々に広がっている。夏に実施した夕涼み会には多くの家族が参加し、事業所との意見交流の雰囲気が醸成されつつある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送りを行い、また、申し送りノートを作成し、職員からの意見・提案を聞く機会を設けている	2ユニットになり職員が倍増する中で、管理者は職員が互いに意見を言い合うことを重視してきており、常勤非常勤を問わず意見を出していく意識が進み、職員間のコミュニケーションが活発になってきている。	たとえキツイ内容の意見であっても、職員同士でなんでも言い合える関係は、職員にとっても大きなやりがいとなっている。今後も自分たちで考え、高め合っていくコミュニケーションを大事にしていてもらいたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則で管理されていると思うが、職員に規則の提示がされていないため分らない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員の力量を把握しているかどうか確認したことがない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会で交流したり、勉強会に参加する機会を頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦情や今までのサービスの利用徐協などゆっくり聞くようにしているご家族と十分話し合うことで、不安を少しでもなくし、ご本人の安心を得られるよう心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の求めているものを理解し、どのような対応が出来るか、事前に話し合いをし、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況などを確認し「その人らしい生活」して頂くため、支援の提案・相談を繰り返す中で、信頼関係を構築しながらサービスにつなげるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者・職員が「共同生活者」であることを意識し、関係を構築できるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のケース記録と日頃の状態をこまめに報告・相談すると共に、ご本人と一緒に支えるために、ご家族と同じような思いで支援していることを伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ずっと継続している新聞の利用や縫物の好きな入居者さんへの対応など、ご本人のこれまでの生活を把握し要望があれば個別で対応し支援に努めている	ドライブに出かけ見覚えのある場所を通るなどしているほか、傾聴ボランティアが毎月ホームを訪れており、徐々に利用者となじみの関係が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や場面を作ったり、入居者同士支え合えるような環境作りや見守りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了した方がいないので、今後取り組んでいきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その日、その時の状態・表情から思いを受け止められるよう努めているが、ご家族の協力が得られず思いが叶っていない方もいる	センター方式を用いた意向把握について勉強会を開催し、利用者それぞれに担当職員を決めて、不慣れではあっても職員全員がアセスメントを行っている。それが理念の意識化とあわせて利用者理解を深めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にこれまでの生活歴をセンター方式に記入して頂いたり、面会の際に聞いたりし把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録や申し送りノート等で生活のリズムを理解し、共有・把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族から状況・希望などを聞き職員全員でケアプランに取り組み、日々の生活に活かせるよう努めているし、変化があった時はモニタリングをし支援出来るよう努めている	アセスメントした利用者の意向と家族からの要望をベースに、生活上の役割を中心としたケアプランを作成している。職員全員が担当利用者のプランを作っており、内容について管理者が丁寧にアドバイスをしている。	習熟度において個人差があるとはいうが、職員全員がプラン作りを行っていることは、利用者支援のプロセスをしっかりと共有するという点で意義が大きい。ケアマネジメントを体験的に理解していく取り組みは今後も継続していくことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には日々の暮らしの様子やエピソード・身体的状況を記録しているが、次のケアにつなげていない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が出来ないことや通院などの支援は柔軟に対応しているが、情報不足の面もあり取り組めていないこともある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回の傾聴ボランティアの来所 地域のボランティアの方の行事への参加		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医の診察の情報提供 やご家族に対応できない時の受診のサポートをしている	本人や家族の希望するかかりつけ医を受診しているが、変更する場合には紹介状を書いてもらい円滑な受診が受けられるよう対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を申し送り等で報告・相談し、変化があった時には看護師に報告・相談し上司に報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、ご家族と情報交換を行い、医療機関には情報提供し支援を行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開所して間もないため、そこまでの取り組みは出来ていない	医療連携の説明をし家族から同意も得ているが、現在検討対象となる利用者はいない。3月に実施した家族会においても終末期の要望を聞いたが、最後までホームでという要望はなかった。先々の状況や要望に備えるために、今後勉強会の予定をたてている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員全員が把握し、実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難のための張り紙はしているが、地域との協力体制を築けていない	緊急時や災害対応のマニュアルを整備している。これから実施する避難訓練では、地域の防災訓練への参加も予定しており、今後は徐々に近隣との協力体制を築きたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に「人として」の視点で共有し、プライバシーの保護やプライドを傷つけない声かけをしている	利用者にも多様な個性があることを理解し尊重すること、そして人として誠意をもって接することが基本であることを管理者は周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の中核症状を理解し、ご本人が自己決定できるような選択肢を解りやすく説明している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な会話の中で一人ひとりのペースや希望を尊重し、その日その時、その瞬間を大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活を尊重し、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前、食後に一人ひとりの出来ることを見極めて、出番作りをしている また、季節を感じる献立を取り入れたり、楽しんで食事が出来るように努めています	食事の準備後片付けでは、自分の役割をもって手伝う利用者が多いほか、買い出しでは男性利用者が荷物をもって職員も助かっている。また2か月に1回は外食の機会も設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し申し送りで職員が共有している個々の嗜好も把握し、取り入れているし、その人に合った食事の時間も対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前に歯磨きや緑茶でのうがいをしているが、職員の意識が低いせいもあり、ゆったりやらなかったりと徹底されていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で一人ひとりの排泄を把握し、入居者のリズムに合わせてトイレ誘導しているうちに自立が出来るようになったトイレでの排泄を大切にしながら支援している	排泄が自立している人も何人かいるが、多くの利用者は兆候を見極めて職員間で共有し、声掛けでトイレを促している。夜もトイレ利用の人が多く、要望がある人は部屋にポータブルトイレを設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品と十分な水分補給と、便秘予防の特別なリンゴ食事前提供と、ラジオ体操を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性・女性での入浴日は決めているが、ご本人が希望した時には入浴して頂いている	毎日入浴している人から2~3日に1回の人まで、入浴頻度は要望に応じて様々である。夕食後に入る利用者もいる。誘っても拒否のある人には足浴で対応したり、脱衣場を温めて寒さを感じないようにして声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	以前の生活習慣を把握し、ゆっくり休めるように一人ひとりの生活リズムを尊重した支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で職員各々が確認している薬の変更があれば書状を職員間で共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「できることから、やりたいこと」になるよう、一人ひとりの出番作りが出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや受診等で外出する機会はあるが、入居者の希望通りの支援になっていない	周囲を散歩すると下校中の小学生や近隣高校の野球部と行きかうことが多く、近所の神社にもよく出かけている。また利用者の要望に応じて近くの金矢温泉に出かけたほか、今後東根温泉にも出かける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使える環境で、自ら電話をかけられる入居者の方もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南川の窓から十分光が入り、明るい雰囲気になっている また、空気の入替えもこまめに行っている	ユニット毎に台所と共用スペースがあり、小上がりやソファが配置されているが、利用者の行き来が自由にでき好きな場所で過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関や廊下にイスを置いて自由に過ごせるようになっているし、小上がりの畳のスペースがあり、足を伸ばして休めるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物を使用したり、部屋にも馴染みの物を置けるよう、ご家族にご協力を頂いている	自分の昔の写真や孫の写真、洋服かけや自分で作った作品など思い思いの品をしつらえて、それぞれに居心地のいい部屋となっている。それらお気に入りの品は、家族が協力して持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はオープンで、分かりやすいようになっている 自分の居室の入口には目の高さになるように名前の張り紙をしている		